

歴史的な見方・考え方を育成するNIE実践 — 歴史を大観するための壁新聞づくりを中心として —

鶴 田 輝 樹

新学習指導要領において、学習活動として諸資料を基にした多面的・多角的な考察、論理的な説明や議論などを通し、社会的事象の特色や理論などを含めた概念に関わる知識を獲得することが求められている。本単元では、新聞資料等を活用しながら、グループごとに協働して様々な視点と方法を用いて平成時代を大観した壁新聞を作る、という主体的・対話的な学習を通して、生徒自身が「歴史的な見方・考え方」を学ぶことができる授業実践をめざす。

1. はじめに

本校では、今年度より研究主題を「『学ぶ』から『探す』へ—中・高6カ年の学びの地図—」に設定し、3年間の実践研究を通じて、「学ぶ」ことが「探す」ことにどうつながっているのか、「探す」ことを通じて「学ぶ」ことにどうフィードバックできているのかを検証する。

実践者は、本校が重視する「探す」ことを、社会科学歴史的分野では、習得した知識・技能を用いて思考・判断・表現する活動を通し、より大きな時代像を生徒自身が探究する（＝大観する）ことだと捉えている。そして、日々の授業で教師が、歴史的事象を、時期・推移などに着目し、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付ける際の「歴史的な見方・考え方（視点と方法）」を生徒に育成することが重要であると考えます。

2. 問題の所在

平成29年改訂の中学校学習指導要領では、「社会的な見方・考え方」を働かせた思考力・判断力・表現力を育成するために、「内容の取り扱いについての配慮事項」として、次のことが述べられている。

- ・資料等を有効に活用して論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、社会科学ならではの言語活動に関わる学習を一層重視する必要がある。
- ・調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るべきである。

さらに、歴史的分野においては、学習の中心が「歴史の大きな流れ」の理解であることが重点化され、「各時代の特色」の学習が、そのためにふまえるべきものだという関係と位置付けが明確にされた。

しかし、学校現場で行われている調べ学習及び歴史学習は、内容よりも活動自体に重きが置かれる傾向があるとともに、原田智仁氏が指摘する通り¹⁾「日本の大観学習の特色は時代の要約ないし概括にあり」「歴史教科書において大観は章末に記載されるなど定型化しており、生徒に飽きられやすい」といった問題を内包している。学習活動や学習内容の形骸化を克服し、日々の授業で習得した知識を活用し、より大きな歴史像を構築することができれば、生徒自身が、歴史がわかる楽しさと歴史をつくる喜びを実感することができるのではないかと。

3. 研究の目的と方法

実践者は、新聞資料こそ、上の事項を十分に満たす有用な学習材であると考え、学校などにおいて新聞を活用して教育を行うNIE (Newspaper in Education) の可能性について検討し、新たなNIE学習の開発を行った。

新聞は、生徒にとって、身近だけでなく社会や世界との関わりの中で学びの意味を実感でき、学習の動機付けに適した教材になりえる。また、生徒が行う新聞づくりの活動は、それ自体が情報収集に基づいた「思考・判断・表現」の活動である。新聞は新しい学びの材料を常に提供してくれ、そこから問いを発見し、答えを仲間と対話しながら協働的に探究することを通して、自分自身の意見や考えを構築していく学びは、「主体的・対話的で深い学び」そのものと考えられるのではないかと。そのよ

うなNIE学習に、歴史を大観するという目的を加えることで、歴史学習の形骸化・内容概括にとどまらない、認識枠組型の歴史の探求学習²⁾を目指した。

2019年度、「新聞を活用した授業を通して、生徒一人ひとりのメディアリテラシーを高めるとともに、語彙の確実な習得、情報を正確に理解し適切に表現する力や思考力を身につけさせる」というテーマのもと、実践者は広島県NIE推進協議会に本校を「2019年度NIE実践指定校」に申請し、認定をいただいた。そして、新聞社の協力を得ながら、次の3つのNIE実

践に取り組んだ。

- 歴史学習に対する関心・意欲を高める活動：中1での「日本遺産をテーマにした新聞作成」
- クリエイティブに情報を創造し発信する活動：中1・中3での「歴史をテーマとしたオリジナルの新聞作成」
- 歴史的な見方・考え方を育成する活動：中1・高1での「特集記事・データベースを活用した壁新聞作成」

表1 2019年度 NIE実践計画

学年	科目名	NIE実践	実施時期	ねらい
中1	総合的な学習の時間	歴史学習に対する関心・意欲を高める活動：「日本遺産をテーマにした新聞作成」	4～5月	・資料等を有効に活用して論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論できる。
	社会(歴史)	歴史的な見方・考え方を育成する活動：「特集記事・データベースを活用した壁新聞作成」	10～11月	・特集記事を活用して、平成時代を大観するとともに、新聞データベースから気になる記事を探し、それをグループで持ち寄り議論しながら壁新聞を作成することで、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける。さらに、情報を正確に理解し適切に表現する力や思考力を身につける。
中3	社会(歴史)	クリエイティブに情報を創造し発信する活動：「歴史をテーマとしたオリジナルの新聞作成」 ⇒中国新聞「第19回みんなの新聞コンクール」ジュニア新聞の部への応募	夏休み	・新聞紙面の構成や、取材、記事の書き方、見出しの付け方など、新聞に関わる基本的なことを学んだうえで、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を身につける。 ・生徒自らがオリジナルの新聞を作成することで、語彙の確実な習得を目指す。
高1	世界史A	歴史的な見方・考え方を育成する活動：「特集記事・データベースを活用した壁新聞作成」	10～11月	・特集記事を活用して、平成時代を大観するとともに、新聞データベースから気になる記事を探し、それをグループで持ち寄り議論しながら壁新聞を作成することで、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける。さらに、情報を正確に理解し適切に表現する力や思考力を身につける。

(1) 歴史学習に対する関心・意欲を高める活動

中学では、まず、生徒に新聞への興味・関心をもたせるため、日常的に生徒が通る校舎1階の掲示板に、中国新聞朝刊一面・朝日中高生新聞・読売中高生新聞を毎日掲示・更新し、NIE実践校としての環境づくりを行った。掲示した新聞は、中国新聞社から無料提供を受けたものであり、その一部は、国語など他教科の教材としても活用した。また、社会科

の授業導入時に、その日のトップニュースに触れるように心がけ、生徒が自主的に新聞に目を留めるよう促した。

中学校に入学して初めて歴史を学ぶ中1に対しては、歴史学習に対する関心・意欲を高めるため、「私が選ぶ日本遺産」というテーマのもと、自分の興味がある歴史的な事象について調査し、授業参観時に保護者に向けて発表する活動を行った。



中学校生徒掲示板の様子



日本遺産をテーマにした新聞

(2) クリエイティブに情報を創造し発信する活動

夏休みの課題として、中1と中3に「歴史」をテーマに、生徒自身のオリジナルの新聞を作成させた。この活動の事前学習として、社会科の授業の中で新聞紙面の構成や、記事の書き方、見出しの付け方などを講義するが、実際の活動を通して、読み手に分かりやすい新聞紙面を作ることで、判断力・表現力を育むことができた。完成した作品は、第19回中国新聞「みんなの新聞コンクール」へ応募し、7名が最優秀賞をはじめとした賞を頂くこともできた。



本校中学生が作成した新聞
(右上がジュニア新聞最優秀賞作品)

(3) 歴史的な見方・考え方を育成する活動

次の単元計画で示す通り、中1・高1を対象に、歴史的な見方・考え方の育成に重点をおいた授業実践を行った。

本単元では、第一次に、平成31年4月18日から中国新聞で連載された特集記事「平成時代を振り返る」を生徒に読ませ、その上で「平成とはどのような時代だったのか」という発問をし個別に平成時代の特徴について考えさせた。生徒は興味深く記事に目を通していたが、あまりにも出来事が多いため、時代の特徴をつかむことには困惑している様子であった。

第二次では、中国新聞の新聞データベースを活用して収集した情報（平成時代におこった様々な事象）を、「政治」「経済」「国際」「文化・科学」の各グループ内で持ち寄り、議論しながら、平成という時代を

最も端的に表す（概念化して説明する）壁新聞を作成させた。その際、平成という時代を推移・比較（類似・差異・特色）・相互の関連（影響）・現在とのつながり（背景）、という様々な視点から考察するよう生徒に促した。

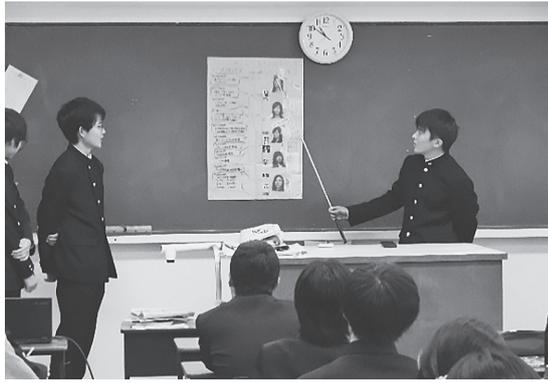
表2 単元計画

第一次	中国新聞の特集記事から平成時代に起こった個別的事実的知識を捉える。…1時間  特集記事「平成を振り返る」
第二次	新聞データベースから個人で収集した情報を、グループ内で持ち寄り、協働して考察しながら、壁新聞を作成する。…2時間
第三次	壁新聞の作成及び完成したものをグループごとに発表する。また、完成した壁新聞を振り返りながら、歴史を大観するための視点や方法について確認する。…1時間

第三次では、完成した壁新聞を、クラス全体に向けて、グループごとにプレゼンテーションをさせ、聞いている生徒には、評価表（レイアウト・プレゼン力・構成力）を作成させた。最後に教師の働きかけによって、時代像はどのような事象を取り上げるかによって印象は変わってくる、同じ枠組みで歴史を見て比較することで時代の特徴がつかみやすくなることを説明した。



グループごとの壁新聞制作



社会科教室でのプレゼンの様子

以下は、授業で使用したワークシート及び、評価シートである。新聞のタイトルを考え記事をレイアウトすることで、事実の概括にとどまらず、時代を通観するメタ的な歴史の見方を習得できたと考えられる。また、作品及びプレゼン自体を相互評価させることで、生徒の授業に対するモチベーションが上がった他、プレゼンのやり方にも様々な工夫が見られた。

⑩ 問 「推移、比較、相互の関連、誰かの功罪」を 歴史を学ぶ視点を養うワークシート

平成はどのような時代だったのか？

1970年代 (1970~2000)

キーワード: 科学技術が進歩した

自然災害が頻発するが、幅広い分野で進歩が認められた

年	出来事	特徴
1971年	阪神淡路大震災	7月5日発生。兵庫県淡路島と神戸市に1万3千以上の被害。震度6弱、死者約5000人。
1977年	地下鉄有楽町線	東京が地下鉄を走る地下鉄が初めて開通した。
1980年	新幹線E5系	小笠原線から新幹線が延伸された。
1985年	阪神大震災	1月17日発生。兵庫県神戸市に7万の被害。津波が襲来。死者約2500人。
1989年	伊勢志摩サミット	平成の大規模な国際会議。北極圏と記念公園が開設。

大きな地震が何度も起きました。また、悪い事故が頻りに起きました。一方で、宇宙で大きな課題が起る時代でした。一方で、人の生活が豊かになるような技術革新もたくさん起ったと思います。よって、科学技術の進歩に伴い、恩恵を人が感じられた反面、その危険性なども併せて感じられた時代だったと思います。

キーワード: 日本が科学が大きく開花した

年	出来事	特徴
1922年	ノーベル賞	有機合成に功をばつた科学者(野村胡堂)が受賞。科学者への賞。
1928年	山中 岩倉	ノーベル賞 生理学 医学賞を受賞。動物の呼吸作用の研究。
1930年	ノーベル賞	物理学 物理学賞を受賞。量子力学の研究。
1937年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1945年	原子爆弾	第二次世界大戦の終結を促した。
1955年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1962年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1969年	阿波罗11号	人類が初めて月面に着陸した。
1971年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1979年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1985年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
1995年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。
2000年	ノーベル賞	生理学 医学賞を受賞。ビタミンの研究。

2000年以降、多くの日本人がノーベル賞(科学分野)を受賞しました。これは、もちろん、研究者たちの大きな貢献であると言えます。その裏には、政府が科学技術の発展を指して計画を行い、研究資金の確保を積極的に行っていたことが、国をあげて行われた科学技術の発展に、日本の科学者が花開いたの大きな理由です。

素晴らしい光の裏側に影が色濃く残ります

授業用ワークシート

評価シート

項目	評価	コメント
政治	79	政治の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。
国際	72	国際関係の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。
国際	72	国際関係の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。
政治	73	政治の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。
文化	77	文化の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。

科学

73

科学技術の進歩が、社会の発展に大きく影響を与えた。

経済

74

経済の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。

文化

72

文化の発展が、科学技術の進歩に大きく影響を与えた。

評価シート

以下は、授業後に実施したフィードバックアンケートに対する生徒の答え（一部抜粋）である。

■授業をふり返って

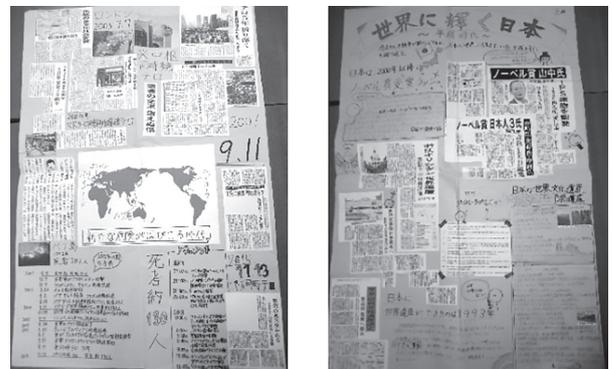
生徒I: 自分の班は、経済を取り上げた。「推移」を視点に考えることで流れをつかむことができた。他の班の発表を聞いて、自分たちとは違う視点で社会をとらえていた所が興味深かった。

生徒K: 調べていく過程で、今まで何とも感じていなかった出来事でも、それぞれの出来事とのつながりや流れを感じるものも多く驚きました。令和になった今年、平成という時代をもう一度見つめ直す良い機会でした。

生徒U: 他の班の発表や実際に自分たちでまとめることによって平成での出来事の比較や推移を実感することができたと思います。また、平成の出来事を振り返っていく上で米朝首脳会談・米同時多発テロ・湾岸戦争・ベルリンの壁崩壊などが特に印象に残りました。令和の時代をつくっていく上で、平成での反省は必要不可欠だとこの学習で一番学びました。

生徒Y: 歴史を見る上で、色々な観点があって面白かった。観点ごとに、マイナスの面やプラスの面があることが分かった。これから新聞を読もうと思った。

生徒の感想からも分かる通り、この一連の作業的・体験的な学習を通して、単に平成時代の特色を理解するにとどまらず、生徒自身が歴史を探究するための枠組みである「歴史的な見方・考え方」を獲得し、自ら得た情報を有効に整理・活用する技能、自分の考えを意欲的に主張する態度を育成することができた。



生徒が作成した壁新聞

4. 学習指導案

実施日 令和元年11月29日(金) 第1限 9:30~10:20
 学年・組 中学1年C組45人(男子24人 女子21人)
 単元 歴史の調べ方 まとめ・発表の仕方／これからの日本と世界
 中学生の歴史(帝国書院)

目標

1. 平成時代における個別の歴史的事象について理解し、調査・諸資料から有効な情報を収集し、活用することができる。【知識・技能】
2. 歴史的事象の意味・意義・特色等を考察し、選択・判断したことを論理的に説明できる。【思考・判断・表現】
3. 自分の考えを意欲的に主張し、グループでの議論に主体的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

本時の目標

1. 壁新聞を作る中で、自ら得た情報を有効に整理・活用することができる。【技能】
2. 壁新聞を発表する際に、「平成とはどのような時代だったのか」を様々な視点・方法から論理的に説明することができる。【思考・判断・表現】
3. グループでの議論及び発表の中で、自分の考えを意欲的に主張することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

本時の評価規準(観点/方法)

1. データベースを有効に活用し、情報を収集・整理することができる。【技能/ワークシート】
2. 時代を考察するための視点や方法を理解し、壁新聞の中で平成時代を多面的・多角的に説明できる。【思考・判断・表現/作品】
3. 様々な意見を考慮しながら議論している。また、他のグループの考えを意欲的に聞くことができる。【主体的に学習に取り組む態度/議論の過程での発言等、評価表】

学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点	観点別評価
<導入> ○前時までの復習	・これまでやってきた学習活動を確認する。	・平成時代の特色を理解する方法として、「政治」「経済」「国際」「文化・科学」にグループ分けしたことを確認する。	
<展開1> ○壁新聞作り (グループごとの議論)	・データベースから個人で集めた資料を、グループ内で持ち寄り、対話しながら、平成という時代を大観した壁新聞を完成させる。 ・壁新聞の中で、集めた情報が整理され、論理的説明がなされているか確認する。	・グループを巡回し、適宜、歴史を考察するための視点(「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」)をアドバイスする。 ・生徒の議論の方向性が適切かどうかを確認する。 ・議論の過程での発言をメモする。	【態度】 【技能】 【技能】 【思考・判断・表現】
<展開2> ○プレゼンテーション (グループごとの発表)	・グループごとに完成した壁新聞を発表する。 ・他グループの発表を評価シートにまとめる。	・プレゼンの時間は大体3分程度に設定する。 ・必要に応じてコメントをする。	【態度】 【表現】
<まとめ>	・ワークシートに各自の考察をまとめるとともに、本単元の振り返りを行う。	・必要に応じて補足・説明する。 ・最後にあらためて歴史を大観するための視点と方法を表として示し、生徒自身が歴史を見ていく上で必要な探究のための枠組みであることを理解させる。	【表現】

授業実施のタイミングについては、以下のようなケースを想定している。

- これから歴史学習をはじめるとの「授業開き」
- 公民的分野との連携を意図した歴史的分野の「総括」
- 総合的な学習の時間、または特別活動の「投げ入れ授業」

どの場面であっても、生徒が自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習を通して、歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付くことができるよう留意する必要がある。

また、本授業の今後の展望として、以下のような課題解決の授業を検討中である。

- これまでの時代と現代の共通点・相違点は何だろう。
- 「令和時代」は、どのような時代になっていくだろう。
- 自分自身で色々な時代の特色について考えてみよう。

5. 実践の結果と評価

今回実践した、歴史学習に対する関心・意欲を高める活動、クリエイティブに情報を創造し発信する活動、歴史的な見方・考え方を育成する活動を通して、新学習指導要領が課す問題に答えるとともに、学習活動・内容の形骸化を脱却することができたと考えている。

特に、中1・高1で実践した、歴史的な見方・考え方を育成するNIE授業については、次のような教育的成果が得られた。

- グループでの協働的作業による、学習意欲の向上
- 情報収集に基づいた壁新聞づくりの活動による、思考力・判断力・表現力の育成
- 新聞記者によって情報読解された記事を読み解くことによる、ニュースの背景の深い理解

一方で、課題として次の二点が上げられる。一点目に、実践者が設定した、歴史を見るための視点と方法は妥当であったか、より有効な視点と方法が他にないか、平成以外の様々な時代で検証する必要がある。二点目に、今回は歴史に特化した実践であったため、今後は公民や高校歴史総合等とのつながりを意識した教科・科目・学年の横断的な実践で、より学習の幅を広げるべきである。

以上のことをふまえ、これからも知識が出来上がるプロセスを重視するとともに、知識それ自体の質

や内容を強く意識した実践研究を進めていきたい。また、生徒自身が、急激に変化し多様化する社会に対応できるよう、「グローバル教育」「多文化教育」「ESD教育」「防災・減災教育」「主権者教育」「地方創生教育」など様々なNIE学習の開発を進めていきたい。

【註】

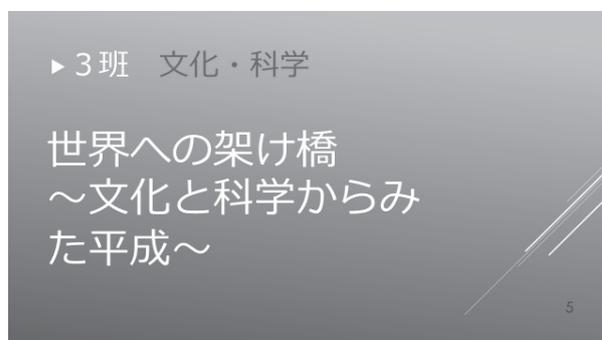
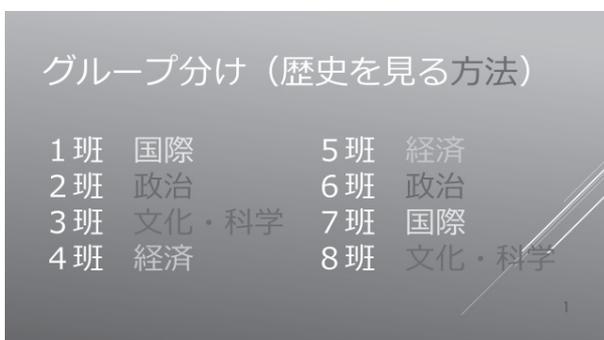
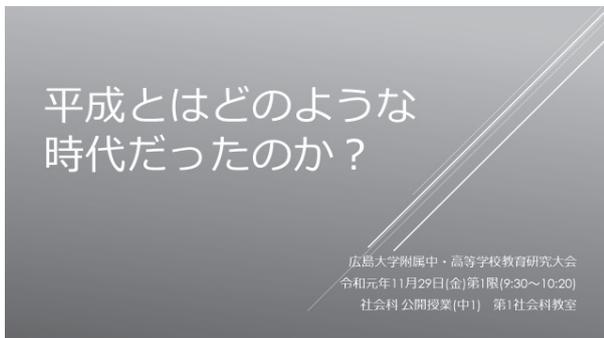
- 1) 原田智仁「歴史を大観する学習の単元構成論—日本と英国の事例分析を手がかりにして—」、『社会科学研究』第78号、2013年、1-3.
- 2) 同上、6-12.

【参考・引用文献】

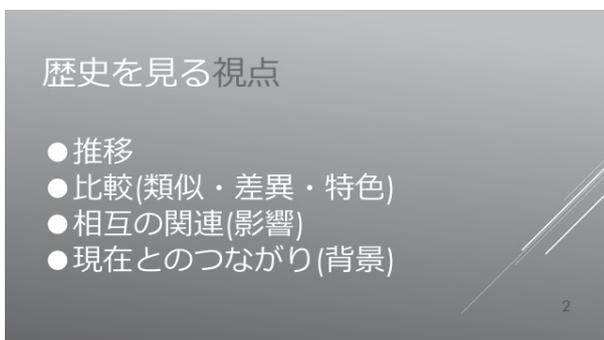
- ・小原友行/高木まさき/平石隆敏『はじめて学ぶ学校教育と新聞活用—考え方から実践方法までの基礎知識』ミネルヴァ書房、2013年
- ・全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書、2011年
- ・全国社会科教育学会編『新社会科授業づくりハンドブック 中学校編』明治図書、2015年
- ・『中国新聞』2019年4月18日～21日、23日～26日朝刊「特集 平成時代を振り返る」
- ・日本NIE研究会『新聞で育む、つなぐ』東洋館出版社、2015年
- ・原田智仁編『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書、2017年
- ・吉見俊哉『平成時代』岩波新書、2019年
- ・NIE 教育に新聞を、<https://nie.jp/>（最終閲覧日：2019年11月18日）

【資料1】

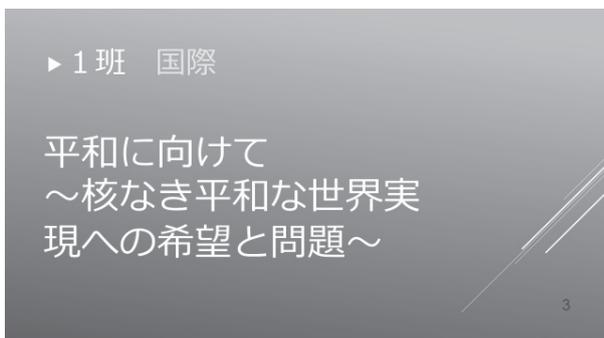
授業で使用したパワーポイント資料及び授業風景



※班ごとに4つのテーマを割り振る。



※壁新聞作り中に生徒に適宜視点をアドバイスする。



※1~8班までそれぞれの発表時にスクリーンに映す。

▶ 6班 政治

考えが変わる“平成”

8

今後の課題

- 今までの時代と現代の共通点・相違点は何だろうか？
- 「令和時代」は、どのような時代になっていくだろうか？
- 自分自身で色々な時代の特色について考えてみよう。

12

▶ 7班 国際

新たな危険がはびこる時代

9

授業で学んだこと

平成時代の特色を学ぶ。(特集記事・新聞データベースから)

↓
時代の特色を理解するための視点と方法を学ぶ。

↓
自分自身で、時代の大きな流れを探究する。

13

▶ 8班 文化・科学

世界に輝く日本 ～平成時代～

10



※令和元年度教育研究大会での授業風景

歴史を見る視点と方法

○○時代	政治	経済	国際	文化・科学
推移				
比較 (類似・差異・特色)				
相互の関連 (影響)				
現在とのつながり (背景)				

11

※授業のまとめで歴史を見る視点と方法を確認する。

